



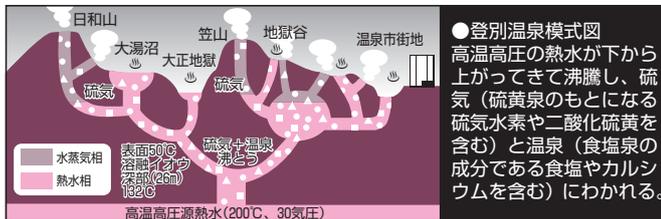
世界に誇る多種類の泉質

温泉とは、地中から湧出する温水や鉱水、水蒸気、ガスの温度が摂氏25度以上か、温泉法で定められた物質のいずれか一つの基準量を含んでいるものをいいます。

登別温泉は、源泉温度が45度～90度で、1日1万トンの温泉がわき出ています。

登別温泉の大きな特徴は、世界的にも珍しい多種類の温泉がわき出ていることで『温泉のデパート』とも言われています。

それでは、登別温泉の泉質と効能を紹介します（【 】内は掲示用新泉質名）。



◎硫黄泉【硫黄泉】

温泉の代表格で、色は乳白色、ゆで卵のような独特においがします。

総硫黄が温泉水1キログラム中に2ミリグラム以上含まれる温泉です。毛細血管や細動脈を拡張し、血液の循環をよくするため、心臓病・高血圧症、慢性の関節炎や皮膚炎などによいとされています。

◎食塩泉【塩化物泉】

見た目は無色透明、海水の成分に似た食塩を含みます。塩分が肌に付着し、汗の蒸発を防ぐので保温効果が高く、ポカポカと湯冷めしにくい温泉です。血液の循環を促進し、殺菌力が強く、痛みを和らげる鎮静効果があるので、切り傷ややけど、打ち身、婦人病、神経痛、腰痛、冷え性などによいとされています。

◎明ばん泉【含アルミニウム泉】

無色透明または、やや黄褐色の温泉です。アルミニウムと硫酸イオンを含み結膜炎などに効くとして『目の湯』とも呼ばれます。また皮膚や皮膚の粘膜を引き締めるため、美肌効果のほか、慢性の皮膚疾患や粘膜の炎症、水虫、じんましんなどによいとされています。

◎芒硝泉【硫酸塩泉】

無色透明、無臭ですが、なめると塩味がします。ナトリウムを含み、硫酸イオンにより血管を拡張して、血液の流れをよくするので、高血圧症や外傷、動脈硬化などによく、また腸の運動を盛んにするので便秘や肥満、糖尿病、痛風などによいとされています。

◎石こう泉【硫酸塩泉】

無色透明で、無味無臭の温泉です。石こうが溶けている温泉で『傷の湯』『痛風の湯』として知られています。カルシウムを多く含み、鎮静や収れん効果が高いため、リウマチや高血圧、打ち身、ねんざ、やけど、しっしんなどによいとされています。

◎緑ばん泉【含アルミニウム泉】

鉄や銅などの鉱物を含むため、空気に触れると酸化して茶褐色に変わります。強酸性でよく温まり、貧血症や慢性しっしんなどによいとされています。

◎鉄泉【含鉄泉】

源泉は透明ですが、空気に触れると酸化して赤茶色となり、タオルが赤っぽくなります。金属味がすることがあります。リウマチ、更年期障害、貧血症、慢性しっしんなどによいとされています。

◎酸性泉【酸性泉】

無色透明か微黄褐色で酸味と臭気強い温泉です。火山地帯に多い泉質で、多量の水素イオンを含んでいます。殺菌力が強いのでしっしんなどへの効能がありますが、皮膚の弱い人は入浴後に真水で洗い流しましょう。

◎重曹泉【炭酸水素塩泉】

無色透明の温泉です。重曹を含み、皮膚の角質層を柔らかくし、分泌物を乳化する作用があると言われています。まるでせっけんで洗ったように肌がなめらかになるため『美人の湯』とも呼ばれます。